

子どもの夢を育む玩具から インテリアとしての人形まで

親しまれて来た文化人形とフランス人形

粘土、木、竹、布、紙、皮革、プラスチック…、人形の素材ほど多種多様なものはありません。日本では古くから神社のお守り、あるいは装飾品などさまざまな目的で人形がつくられています。ただし、子どもの遊び道具としての人形が普及するようになるのは主に明治以降です。

大正時代に小さな子どもが背負ったり、枕にすることもできるように布の中にもみ殻や細かな木屑を詰め、顔などを描いただけの枕人形が流行りました。さらに枕人形に手足を付けたものを文化人形と呼びました。こうした布製の人形を布帛人形と呼んでいます。

布帛人形には、顔や体型などをよりリアルに表現するため、陶器やプラスチックなどで頭部や手足をつくり、それに衣服を着せたフランス人形や尾山人

形（日本人形）もあります。

企画力とデザイン力で高付加価値

現在の組合の母体となった名古屋布帛玩具連合会が結成されたのは昭和29年でした。連合会の中には文化部とフランス人形部が設けられました。布の中に詰め物をした人形と、あらかじめ作っておいた胴体に服を着せる人形では作り方が異なっていたのです。昭和38年に愛知県人形玩具工業協同組合に名称を変更します。翌39年からは愛知県人形玩具工業協同組合の他、人形玩具関係の4団体合同による人形供養をはじめました。さらに昭和43年から中部人形玩具見本市（現：中部人形見本市）をはじめました。

最近是人件費の安価な中国で生産されたものが主流になりつつあり国内メーカーは減少しています。少子化時代といわれていますが、玩具市場全体の市場

は若干の成長が見られるようです。フランス人形を制作できる国内メーカーは名古屋市の1社のみとなっています。いま、メーカーに求められているのは強力な企画力とデザイン力です。細かな色の再現などはコンピューターが瞬時にやってくれますが、時代を先取りした企画力は人でなければできません。玩具としての人形は子どもの夢を育ててくれます。そんな人形をこれからも作り続けて欲しいものです。



DATA ■愛知県人形玩具工業協同組合
所在地：西区新道二丁目 15-17 愛知県業業会館
・昭和 29 年：名古屋布帛玩具連合会を結成
・昭和 38 年：愛知県人形玩具工業協同組合に名称変更
・昭和 39 年：人形供養を開始
・昭和 43 年：中部人形玩具見本市（現：中部人形見本市）開始